

■環境省エコツーリズム推進モデル事業分

事業項目	平成16年度	平成17年度	平成18年度
<p>知床型エコツーリズムのあり方検討 本事業の最終年度には知床型エコツーリズムのあり方についてのガイドラインの策定を目指す。検討に当たっては、知床エコツーリズム推進協議会を設置し、知床財団がエコツーリズム推進支援機関として統括事務局を運営するとともに、斜里・羅臼両町との連携を図りつつ、各事業の実施や調整を行う。また、知床ガイド協議会への支援も併せて行う。</p>	<p>事業全体の調整 年2回の推進協議会を実施し、各事業の調整を具体的にを行う。また、推進協議会は、外部組織よりアドバイザーを入れる。</p>	<p>事業全体の調整 年2回程度の推進協議会を実施し、各事業の調整を行う。知床型エコツーリズムのあり方など、平成18年度に作成する推進計画、エコツーリズムに関するガイドライン作成に向けての検討を行う。 市民向けの情報発信 エコツーリズム普及に向けての講演会を実施し、市民への情報発信を行う。また、他地域のエコツーリズム事業者を招き、情報収集を行う。</p>	<p>事業全体の調整・報告 年2回程度の推進協議会を実施し、各事業の調整を行う。推進実施計画を含む報告書を作成する。 ガイドライン、推進実施計画の策定 ワーキングを開催し、平成17年度から検討を開始したガイドラインを策定する。平成16年度に策定した知床エコツーリズム推進計画に基づいたアクションプラン（推進実施計画）を策定する。 3ヶ年事業終了後にエコツー推進を引き継ぐ体制・組織作りの検討を行う。</p>
<p>ガイド技術講習会 安全対策、ガイド能力の向上を目的とした講習会を実施する他、エコツーリズムに関する哲学や自然に関する知識及び技術向上の講座を開催する。 知床財団が行う地元ガイド向け講習会やセミナーとも連携する。</p>	<p>エコツアーガイド講座の開催 エコツーリズム概論をはじめ、ガイドのモラルと果たすべき役割などフィールドを利用する際に必要な知識を学ぶ。 また、海外エコツアーガイドを招聘し、海外のエコツーリズム先進地における事例を学ぶ。</p>	<p>安全対策を中心とした講習会の実施 ガイドをする上での安全対策・関係する法令などについての講習会のほか、ガイド中の事故・緊急事態に対応するための救急・救命法などについての研修を行う。また、博物館の協力を得て、自然に関する知識を身につける講習会も実施する。</p>	<p>技術講習の実施 インタープリテーションの手法などガイドングに必要な技術等についての講習会・実地研修を実施する。</p>
<p>先進地視察と報告ワークショップの開催 エコツアー先進地の視察結果を踏まえたワークショップの開催。ワークショップでは漁業・農業従事者もパネラーとして参加し「地域産業とエコツーリズム」についての意見交換を行う。新たな発想をもとに地域ぐるみで取り組むための下地を作る。</p>	<p>海外エコツアーガイドからの情報収集 「ガイド技術講習会」事業で招聘した海外エコツアーガイドから海外エコツアー先進地の情報収集を行い、平成17年度に行われる先進地視察地と視察方法を検討する。</p>	<p>エコツアー先進地視察 原生自然環境でのエコツアーの取り組みや、国立公園の利用のあり方について学ぶワークショップ型視察を実施。地域産業などを活かした体験型観光の視察も行う。</p>	<p>知床型エコツーリズムワークショップとイベントの開催 漁業・農業従事者を交えて、観光と地域の結びつきをテーマに意見交換を行うワークショップを開催する。 また、エコツーリズムの普及のための町民向け講演会を実施し、「知床型エコツーリズム」を地域の内外に向けて広く情報発信する機会とする。</p>
<p>地域産業との連携したエコツーリズムの展開 漁業・農業など知床の地に根ざした一次産業の現場は、当地でエコツーリズムを展開する上で、活用可能な資源であるとともに、地域経済において重要な位置を占める。 地域産業を活かしたエコツーリズムの展開は、地元経済への貢献と自然環境を大切に地域社会の構築を両立させる道でもある。この事業を通じて知床ブランドを活かした地場製品の消費につながる体験プログラムの検討や、漁業・農業を活かした体験プログラムを検討する。</p>	<p>漁業・農業・観光業関係者によるワーキング 漁業、農業、観光業各関係者によって構成されるワーキンググループを結成し、産業横断型の連携による地場産業を活かした新しいエコツーリズムモデルを検討する。 ヒアリング調査 漁師、農家からヒアリング調査を行い、エコツーリズムに活用可能な資源調査を行う。</p>	<p>地域産業連携型のエコリズムの試行 平成16年度の協議結果を踏まえ、漁業、農業などと連携したプログラムを滞在型モデルツアーの一部として試行的に実施する。漁業者・農家など受け入れ側へのガイダンス・講習会も実施し、受け入れ体制を整備する。</p>	<p>地域産業連携型プログラムの試行 平成16, 17年度の協議結果を踏まえ、引き続き漁業・農業を取り入れた地域産業連携型のプログラムの企画・試行を行う。 一部観光地への利用の集中を緩和し、利用の分散を図るため、新たな観光資源としての地域産業の活用を促進する。</p>
環境省エコツーリズム推進モデル事業合計			

■北海道エコツーリズム推進事業分

事業項目	平成16年度	平成17年度	平成18年度
<p>エコツーリズム推進計画の策定 エコツーリズム先進国や先進地の取り組みの情報収集を行い、北海道に適したエコツーリズムの推進計画を策定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道東エコツーリズムマップ作成 エコツーリズム推進計画案作成 	<p>知床型環境教育プログラムを検討する。 通年かつ体験・滞在型観光地づくりを推進する</p>	<p>知床型環境教育プログラムを開発する 「知床世界自然遺産候補地管理計画」に即した環境教育プログラムの検討及び指導者の養成を行うとともに、情報発信を行いながら、地域に根ざした環境教育の推進を図る。 通年かつ体験・滞在型観光地づくりを推進する 体験観光事業者、ホテル・旅館業者、旅行業者など関係者の合意のもとに、体験型観光の推進、食の魅力向上、ホスピタリティの充実を図るとともに、環境保全意識の高揚を図りながら、通年かつ体験・滞在型の観光地づくりを進める。</p>

■斜里町・羅臼町エコツーリズム推進事業分

事業項目	平成16年度	平成17年度	平成18年度
<p>滞在型モデルツアー推進事業 知床におけるモデルツアーの企画立案、旅行業者をはじめ関係者への普及。企画立案に関しては、地元ガイドが中心となりモデルツアーも合わせて実施する。また、現在の1泊バス移動型観光から滞在型観光への移行手法を宿泊施設関係者や公共交通機関関係者とともに検討し、異業種間の連携を試みる。</p>	<p>モデルツアーの企画 バス会社、宿泊施設、漁業・農業関係者と滞在観光のあり方の検討を行い、具体的に企画する。 モデルツアープロモーション活動 企画したモデルツアーを旅行会社とタイアップし、次年度の実施に向けて、準備を進める。</p>	<p>モデルツアーの企画・実施 旅行会社とのタイアップによる滞在型モデルツアーを実施し、参加者や対応したガイドの意見をフィードバックさせて次年度の企画を行う。 滞在型観光実現のための検討も行う。</p>	<p>モデルツアーの企画・実施 世界遺産登録後、特に観光客が集中するウトロ地区からの利用の分散を図るため、斜里町側半島基部・羅臼町における新たなツアー形態の開拓・発掘を行う。漁業・農業などの地域産業と連携し、新たな側面から知床の魅力を体験可能なモデルツアーの企画・試行を行う。 宿泊施設など受け入れ態勢の充実 民宿・旅館などのレベルアップを図り、知床全体での滞在型エコツーリズムの受け入れ態勢を強化する。 宿泊施設向けのガイドラインを作成・配布し、環境に配慮した経営などについての研修会を実施する。また、宿泊施設の従業員向けに知床の自然や世界遺産、利用者へのルール・マナーの普及についての勉強会を実施する。</p>
<p>海外からの旅行者の誘致推進事業 知床が世界遺産に登録された場合には、海外からの注目度は一層高まることが予想される。海外からの来訪者を対象としたツアー企画、情報伝達のあり方を検討。パンフレットの英語版などを作成するほか、ホームページによる情報提供も試みる。</p>	<p>海外エコツアーガイドからの情報収集 「ガイド技術講習会」事業で招聘した海外エコツアーガイドから海外の旅行者誘致に向けて、広報手法や現地対応に関するノウハウを学ぶ。</p>	<p>知床紹介英文HPの作成 外国人対応のホームページを立ち上げ、海外ツアーリストが必要とする情報を提供し、海外からの旅行者の誘致を進める。</p>	<p>知床紹介英文HPの運営・管理 平成17年度に作成した海外からのツアーリスト向けの英文ホームページの更新作業を行う。宿泊・アクティビティなどツアーリストの必要とする情報を随時最新の情報に更新し、提供する。</p>
斜里町・羅臼町エコツーリズム推進事業合計			